

科目名称	初等教科教育法(生活) (2組)
授業コード	BN271B
英語名称	Teaching Methodology of Elementary Subjects (Life Environment Studies)
学期	2024年度後期
単位	2.0
担当教員	富永 弥生
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	この授業では、生活科の創設からの変遷、幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続する機能について理解する。そして、生活科の意義を認識するとともに、小学校学習指導要領を基に、生活科の目標、生活科で育成する資質・能力、内容、指導方法について理解する。そのうえで、学習指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業を行う。生活科の授業設計の方法を身に付け、お互いの学習指導案・模擬授業を基にしたディスカッションをとおして授業実践の工夫を考察していく。
科目に関連する実務経験と授業への活用	この授業では、小学校教諭として児童と深くかかわってきた現場での実務経験を活かし、「生活」を指導していく上での知識、技能等を解説するとともに、学習指導要領を踏まえ、教育現場に生かすことができるよう、アクティブラーニングを導入しながら実践的な教育を展開していく。
到達目標	生活科の教科としての意義や、生活科の目標・内容・指導方法などについての基礎的な知識を習得するとともに、実際の生活科学習のあり方について、学習指導計画や学習指導案などの作成を通して具体的な授業場面を想定した授業設計を検討・提案する能力を培う。
計画・内容	第1回 オリエンテーション・三つの自立への基礎 第2回 生活科の目標と教育内容の変遷 - 生活科創設の背景・意義 - 第3回 生活科の内容構成と指導計画作成の配慮事項 第4回 スタートカリキュラムの編成 第5回 指導計画作成の実際と単元の構成 第6回 授業設計と学習指導案の作成 - 内容の取扱いと学習指導の進め方 - 第7回 教材教具の作成とコンピュータや情報通信ネットワークの活用 第8回 学習指導案の検討 - 学習評価の規準と評価方法 - 第9回 模擬授業の実施・参観と協議（学校，家庭及び地域の生活に関する内容 [1 年] ） 第10回 模擬授業の実施・参観と協議（学校，家庭及び地域の生活に関する内容 [2 年] ） 第11回 模擬授業の実施・参観と協議（身近な人々，社会及び自然と関わる活動に関する内容 [1 年] ） 第12回 模擬授業の実施・参観と協議（身近な人々，社会及び自然と関わる活動に関する内容 [2 年] ） 第13回 模擬授業の実施・参観と協議（自分自身の生活や成長に関する内容） 第14回 生活科と他の教科等との横断的な学習 - カリキュラム・マネジメントの視点から -

計画・内容	第15回 指導計画と授業の工夫改善
授業の進め方	講義、演習を行う。 模擬授業の回には、学生が模擬授業を行い、模擬授業後に授業内容・指導方法について協議する。
能動的な学びの実施	アクティブラーニングを取り入れ、演習や実習を適宜行う。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当部分や参考資料を読み、不明な点をまとめておくこと。（各回1～2時間） ・授業後に教科書や授業資料等をもとに自身の理解を確認し、重要な点をまとめる。模擬授業の準備や模擬授業実施の回には、指導案の作成や、指導案の工夫・改善を検討して修正案を作成すること。（各回2～3時間）
教科書・参考書	教科書 小学校学習指導要領解説家庭編，文部科学省，東洋館出版社，2018 参考書 新編 新しい生活上・下，東京書籍，2024
成績評価方法と基準	積極的な授業参加 30%、レポート・学習指導案の作成 25%、模擬授業の発表 20%、課題論述試験 25%
課題等に対するフィードバック	レポート・学習指導案の作成のフィードバックは次回以降の授業・オフィスアワーにコメント・返却する。 模擬授業の発表のフィードバックは授業内に口頭で行う。 課題論述試験のフィードバックはオフィスアワーに行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照。
留意事項	教材作成に使用する文具等は各自用意すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する。 課題論述試験については、レポート課題に振り替え、レポート課題の評価を課題論述試験（25%）の評価に充てる。

科目名称	初等教科教育法(生活) (1組)
授業コード	BN271
英語名称	Teaching Methodology of Elementary Subjects (Life Environment Studies)
学期	2024年度後期
単位	2.0
担当教員	富永 弥生
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	この授業では、生活科の創設からの変遷、幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続する機能について理解する。そして、生活科の意義を認識するとともに、小学校学習指導要領を基に、生活科の目標、生活科で育成する資質・能力、内容、指導方法について理解する。そのうえで、学習指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業を行う。生活科の授業設計の方法を身に付け、お互いの学習指導案・模擬授業を基にしたディスカッションをとおして授業実践の工夫を考察していく。
科目に関連する実務経験と授業への活用	この授業では、小学校教諭として児童と深くかかわってきた現場での実務経験を活かし、「生活」を指導していく上での知識、技能等を解説するとともに、学習指導要領を踏まえ、教育現場に生かすことができるよう、アクティブラーニングを導入しながら実践的な教育を展開していく。
到達目標	生活科の教科としての意義や、生活科の目標・内容・指導方法などについての基礎的な知識を習得するとともに、実際の生活科学習のあり方について、学習指導計画や学習指導案などの作成を通して具体的な授業場面を想定した授業設計を検討・提案する能力を培う。
計画・内容	第1回 オリエンテーション・三つの自立への基礎 第2回 生活科の目標と教育内容の変遷 - 生活科創設の背景・意義 - 第3回 生活科の内容構成と指導計画作成の配慮事項 第4回 スタートカリキュラムの編成 第5回 指導計画作成の実際と単元の構成 第6回 授業設計と学習指導案の作成 - 内容の取扱いと学習指導の進め方 - 第7回 教材教具の作成とコンピュータや情報通信ネットワークの活用 第8回 学習指導案の検討 - 学習評価の規準と評価方法 - 第9回 模擬授業の実施・参観と協議（学校，家庭及び地域の生活に関する内容 [1 年] ） 第10回 模擬授業の実施・参観と協議（学校，家庭及び地域の生活に関する内容 [2 年] ） 第11回 模擬授業の実施・参観と協議（身近な人々，社会及び自然と関わる活動に関する内容 [1 年] ） 第12回 模擬授業の実施・参観と協議（身近な人々，社会及び自然と関わる活動に関する内容 [2 年] ） 第13回 模擬授業の実施・参観と協議（自分自身の生活や成長に関する内容） 第14回 生活科と他の教科等との横断的な学習 - カリキュラム・マネジメントの視点から -

計画・内容	第15回 指導計画と授業の工夫改善
授業の進め方	講義、演習を行う。 模擬授業の回には、学生が模擬授業を行い、模擬授業後に授業内容・指導方法について協議する。
能動的な学びの実施	アクティブラーニングを取り入れ、演習や実習を適宜行う。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当部分や参考資料を読み、不明な点をまとめておくこと。（各回1～2時間） ・授業後に教科書や授業資料等をもとに自身の理解を確認し、重要な点をまとめる。模擬授業の準備や模擬授業実施の回には、指導案の作成や、指導案の工夫・改善を検討して修正案を作成すること。（各回2～3時間）
教科書・参考書	教科書 小学校学習指導要領解説家庭編，文部科学省，東洋館出版社，2018 参考書 新編 新しい生活上・下，東京書籍，2024
成績評価方法と基準	積極的な授業参加 30%、レポート・学習指導案の作成 25%、模擬授業の発表 20%、課題論述試験 25%
課題等に対するフィードバック	レポート・学習指導案の作成のフィードバックは次回以降の授業・オフィスアワーにコメント・返却する。 模擬授業の発表のフィードバックは授業内に口頭で行う。 課題論述試験のフィードバックはオフィスアワーに行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照。
留意事項	教材作成に使用する文具等は各自用意すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する。 課題論述試験については、レポート課題に振り替え、レポート課題の評価を課題論述試験（25%）の評価に充てる。